

竜雲舜虹苑は地域の皆様の心と心をつなぐ虹の懸け橋でありたいと願っています。

「一条の光」

かれこれ七十年前のことである。

私がまだ小学生の頃の事である。私の小学校は相当遠方であった。子供の足で四十分くらいかかって登校した。夏の頃はいいが、冬の時期には夕方の五時、六時は結構、帰路は暗くなっていた。帰る頃は次第にうす暗くなっていく。そこで、できるだけ近道を選ぶのだが、それでもづいぶん周囲は暗黒が迫ってくる時があった。

校門の前の道をしばらく南に向かって行くとこんもりとした「お宮さん」がある。そこを左に百メートルくらい行くと行き止まりとなり、さらに右にまがると古い旧家がある。その家の長い堀を通過し、やがてまた左にまがると広い道に出る。その道の途中に火葬場があり、時々白い煙がたちこめ遺体が焼かれていた。その状況は子ども心にも特別の恐怖心をおぼえ、一気にそこを走りぬける様にして通り過ぎるのであった。そこを通過するともう「土器川」の土手になっていて、粗末な木の橋がかかっている。百五十メートルくらいの橋の上を一心不乱になって走りぬけると向こうの岸の土手に着く。ところが、この土手の次にはクヌギや竹林が続いていて、これまた不気味に見えたものである。

橋を渡り右手にカーブしながら走りぬけるともう我が家が遠方に見えるのだが、そんな時、ふと真つ暗なうしろの道の方をふり返って見た時、一台の三輪トラックがライトをつけて、西手の土手を南から西に通る。遠く西の土手の方ではあったが、その時のライトの光が、一瞬にして私の不安と恐怖心を消しさってくれたのである。

川の向こうの「一条の光」が、不安いっぱい私の心を何とホッと安堵させてくれたことか。あれから七十年の歳月が流れているが、今日の今でも忘れることができない深い印象として残っている。



職員雑感

短期入所副主任

ケアワーカー 佐野恵造



私は竜雲舜虹苑で働き始めて6年目になります。特養で5年間勤務し、今年の4月から短期入所で勤務しています。

私が思う介護の魅力は、利用者様、御家族様から喜びの声や感謝の言葉を直接頂ける事です。日々、利用者様と関わる中、入浴後に「ありがたう、気持ち良かったわ」「家でやるよりここでおったほうが楽しいわ」と言ってもらえる嬉しき気持ちになります。

しかし、時には仕事をしていて挫けそうになる事もあります。そんな時に私を支えてくれたのは利用者様でした。

ある利用者様の排泄介助の際に「汚い事させてごめんよ。家族もやってくれんような事してくれて」と言われ私は「いえいえ、僕は好きでこの仕事をしてるんで何でもないですよ」と答えると「あんたみたいな素晴らしい人なかなかおらんで、これから大変な事いっぱいあると思うけど、頑張ろうで」と言ってくれました。その時、自分が必要とされているんだ、挫けてはいけなさと仕事への情熱が湧いてきました。

今後も仕事で色々悩む事がいっぱいあると思いますが、利用者様に支えて頂きながら多職種連携し、職員間で協力して頑張っていきたいです。



地域活動紹介



8月5日に開催された仏生山門前ま祭りに28名の竜雲学園の職員が踊りやバザーに参加しました。バザーは「射的」を実施。大勢の地域の方が足を運んで下さり、一緒にお祭りを楽しみました。

行事紹介



ケアハウスでは丑の日に「うな丼」を頂きました。利用者様から「炭火で、美味しかったわ」と喜ばれました。



ケアマネージャーによる出前講座です。

7月26日水曜日 10時～
香川町のサロンより依頼があり「介護保険、施設等」についてのお話をしました。



社会福祉法人竜雲学園 竜雲舜虹苑

特別養護老人ホーム
短期入所サービス
通所介護サービス
認知症型通所サービス
訪問介護サービス
老人介護支援センター
ケアハウス



〒761-8078
高松市仏生山町甲 3100 番地 2
TEL: 087-888-5800
FAX: 087-889-1004

気をつけよう！熱中症

特養副主任 看護師 川田俊子



今年の夏は、フェーン現象のため例年より暑くなると予想されています。厚生労働省ホームページより、熱中症予防には、

① 暑さを避ける

室内では扇風機やエアコンで温度調節、遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用、室温をこまめに確認しましょう。

外出時には日傘や帽子の着用、日陰の利用、こまめな休憩、日中の外出をできるだけ控える。からだの蓄熱を避けるために通気性のよい衣類の着用、保冷剤、氷等で体を冷やしましょう。

② こまめに水分補給をする

室内でも外出時でも、のどが渇いていなくてもこまめに水分・塩分・経口補水液などを補給しましょう。



自力で水が飲めない、意識がない場合はすぐに救急車を呼びましょう！